

A scenic landscape of a mountain valley. In the foreground, a wide, shallow river flows over a bed of grey gravel. The river is flanked by steep, forested mountainsides. On the left, a small cluster of traditional Japanese houses is nestled on a hillside. On the right, a paved road with a guardrail runs along the edge of the valley. The sky is filled with large, white, fluffy clouds. The overall atmosphere is peaceful and natural.

太田部昔話

きつねの話

いびいやきの
げんしちろう

昔は、
鬼石や坂原もたいへん
さびしい所があり、
ひるまでもうす暗い所
がたくさんありました。
ですから、
しぜんと
きつねもいて、
まわりの山に
入ると日あたりの
いい岩かげなどに、きつねの
穴があっちにもこっちにも
ありましたし、
おいなり様の
まっかなとりいが
ずいぶん多かった
ようです。



太田部に、馬でまきや炭、かどなどを
鬼石へはこんで生活しているおじい
さんがいました。たいへん力もちで若い
ころは草ずもつで東のおおぜきを
はりましたし、きものすわった人でした。
おじいさんは、いつものように鬼石へ
炭などをほごびかえりには
たのまれた米や酒、油や
魚などをつけて馬のすず
に合わせてとくいの馬子唄、さびの
きいたいい声でうたをうたいなが
坂原のあたりまできました。

そのころは、月も西にすすみはじめ木のかげが長く長く
のびていました。人気のないせまい坂道をのほりきると、
道のわきに美しい娘がしゃがんでいました。



「やっしたんだね、もうすぐ暗くなるよーって。」

と、馬をよめて娘に話しかけました。

「まだほまじらさまの用に行かへんやうでござるが、

とちゅうで足をいためて困っているぞです。

すいません、太田部の入口まででけりゃいいです。

馬にのせてくれませんか。」

娘はいたそうに足をさすり

さすり言いました。

しんせつなおじいさんは

ふびんに思い

馬のしりにのせ、

またすすをなうこ

ながら道をいそぎまし





しほりへいじふとあじいへは、
娘のいたなつおな「しほ
にきづいたのです。」

「たしかに木田部の

入口まで行ったのです。」

といったが、

おれがどうして木田部の

者とわかったんだろう。

そついえば、

足がいたいと

いいながらうまの

しりへかゝるがまゝ

とびのった。

これはただ者

じやないぞ。」



とつと後を見ると、
うす暗くまわりが
ほんやりみえるのに
娘のすがただけが
はつきりと見えるのです。
きものすわったおじいさんは、
馬をとめて、

「これがうは道も
悪くゆれるしな、
おちてまた足を
いためてはたいへんだ。」

そう言いながら用心
深く娘のそばに寄りになわで、
足や体をぐるぐる
まきでいて馬のへんりを
しっかりぐへんりつけました。



家につくと、おほあさんに
てつたわせ、娘をひきおろし、
竹かごづくりのかすを
あつめさせ、
その竹へうに
火をつけました。
けむりはもうもうと
あがりむすめのからだを
つつんで
しまいました。



けむりが大きくなると、
中からまっしろな
けものが飛び出しました。
「じやんやをやるや、
ほんとうのいびり焼きに
してしまっぞ。」
おじいさんは、
逃げていくきつねに
おおとなりしました。



きりきり、きりきり、きりきり、きりきり、きりきり、
「きりきり、きりきり、きりきり、きりきり、きりきり、
きりきり、きりきり、きりきり、きりきり、きりきり、
(きりきり、きりきり、きりきり、きりきり、きりきり、)
きりきり、きりきり、きりきり、きりきり、きりきり、
長い尾をひるがえり
山のほうへいってしまいました。



そんなことがあってから、
よそ村では、
にわとりやうさぎを
とられたり、さつま畑が
ほり返されたり
しましたが、
太田部では
そんなこと
がなくなった
そうです。



おしまい